

# 乙 頁

第9号 (通巻第3巻第1号)

1983年4月30日 発行

守山市立埋蔵文化財センター発行  
TEL 0775-85-4397

〒524-02  
守山市服部町1318番地

※※※※ 昭和58年度当初に……※※※※

守山市立埋蔵文化財センターは本年11月で開所以来満三歳となります。人間に例えるなら一人歩きができ、自我の芽ばえの時期にあたります。この時期が人間の成長の中で最も重要なときで、将来がきまるといわれています。

私たちの身のまわりでは「日進月歩」よりも早い、いわば「秒進分歩」とでも例えられそうなスピードで変化してゆく環境があります。このスピードが正であるのか、負であるのかはここで議論をさしおくとして、文化財も、動きの早い環境にあるのだということを認識しなくてはなりません。そして、この状況を先取りして文化財の保存、活用を計ってゆかねば、大半が消滅してしまうでしょう。「伝統に学び、文化のかおり高いまち」とする基本は先ず、土、水、空気など自然の条件も必須でしょう。

本年も数多くの調査を実施しなくてはなりませんが、人間の生活跡を調査するのでですから慎重に、時間も相当必要でしょう。そして、みつかった生活跡を市民の方々に広くみて頂ける機会を設けたいと思います。

今年度の人員は次の通りです。

職 名	氏 名	担 当
所 長	北 村 勁 嗣	センターの統括
参 事	中 江 寿 昭	センターの総括補佐
主 事	山 崎 秀 二	調査計画、維持管理
主 事	岩 崎 茂	調 査、展 示

職 名	氏 名	担 当
調 査 員	畑 本 政 美	調査、普及、資料集取
調 査 員	宮 下 曉 夫	調査、展示、啓発
調 査 員	岩 崎 陽 子	調査、普及、啓発
調 査 員	中 納 久美代	調査、資料集取
用 務 員	福 沢 絹 枝	維持管理

※調査員の畑本、宮下、中納の三人は4月から新規の職員で他府県から勤務することになりました。住居も移転したところで地理に不慣れですが、よろしくお願いします。

昭 和 5 8 年 調 査 計 画

遺 跡 名	原 因	面 積	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
播磨田東遺跡	倉庫	7300	←		→									
伊勢遺跡	住宅	200	←											
金森東遺跡	住宅	28000	→											
金森西遺跡	個人	500	←											
下長遺跡	工場	6000	←		→									
古高遺跡	中学校	45000	←											
横江遺跡	住宅	38000	→											
吉身北遺跡	個人	1000	←											
伊勢遺跡	住宅	2000			←		→							
吉身北遺跡	住宅	3000							←		→			
金森西遺跡	個人	400	←		→									

△センター特別展計画表

回数	期 間	内 容
1	4/29~5/8	遺跡からの出土品と有形民俗資料
2	8/14~8/21	市内の遺跡展
3	11/1~11/30	古代~中世の遺跡展、講演会
4	3/17~3/25	昭和58年度の調査成果展

##### 3月の特別展に約400人の見学者 #####

守山の名宝展と題して開催した特別展（3月20日～3月27日）で市内外から多数の見学者がありました。期間中に実施した講演会にも大勢の方がみえ約2時間の講演を熱心に学習されました。以下、講演の概要を報告します。

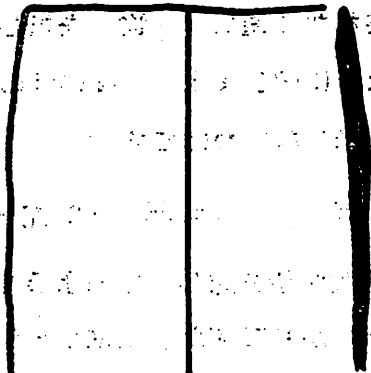
「最初に服部遺跡や大中ノ湖南遺跡のスライドを説明された後、縄文～弥生時代の時代的特徴を分析、そして稲作のルートを諸説から紹介され、中国大陸の状況から自説を展開、ジャポニカ、インディカの品種の追究から中国の華中を起源としていることを主張。そして弥生時代の開始について中国大陸の政治の動きを無視するわけにはゆかず、紀元前200～300年ごろの動きを説明されたあと、おそくとも紀元前221年の「秦」の統一までには日本（北九州）に弥生文化と呼ぶ稲作を中心とするものが伝わったと説かれた。」

最新の成果を活用され暫新で、有意義な講演でした。

（昭和58年3月21日実施 講師 県文化財保護課係長 丸山 竜平氏

##### \$\$\$\$\$\$&&& 吉身北遺跡で製塩土器が！！ \$\$\$\$\$\$

昭和56年11月から57年11月の間に梅田町八ノ坪で発掘調査を実施した吉身北遺跡で整理作業をしているときに、製塩土器（塩づくり用の器）のあることがわかりました。厚み約2mm、直径約4cmの小さい円筒形の土器で、おそらく日本海側から持ち運ばれたものと考えられます。この種、製塩土器の出土は県内でも珍しく高島郡新旭町針江遺跡、今津町弘部野遺跡など三ヶ所ほどで、吉身北遺跡は数少ない中の一つです。なお、吉身北遺跡は遺構、遺物とも多く、時期は五世紀～六世紀の住居跡が多くみつかっています。



左が出土した製塩土器の実測図です。  
遺物は他に破片で5～6点確認されて  
います。詳しくは、当センターへお問い合わせ  
下さい。

◎◎△◎◎ 春の特別展はじまる!!

恒例のゴールデン・ウィークを利用した文化財特別展を下記の通り開催しています。農繁期で皆様お忙しいこととは思いますが一寸の時間を割いて埋蔵文化財センターへ足をお運び下さるよう案内いたします。

今回は市内の遺跡から出土した資料と最近まで生活や生産の道具として使われてきた民俗資料をあわせて展示することにしました。「あ!これはなつかしい」と思ってみただけのものと考えます。実はこの「なつかしい」ものが2000年近くの歴史を経て使われ、作られていたことを知って頂きたいと思っています。

記

1 期 間 昭和58年4月29日(祝)～5月8日(日)の毎日

2 場 所 守山市立埋蔵文化財センター

(守山市服部町/3/8)

3 テーマ 「古代の出土品から有形民俗資料へ」

4 開館時間 午前9時から午後4時まで

5 その他 問い合わせは 市立埋蔵文化財センター

(0775-85-4397)

市教委社会教育課

(0775-83-2525)

※ 有形民俗資料とは、生活のあり方、仕方、生産活動の方法など、また祭祀、年中行事など人間生活の中で生み出された「道具」「物」を指し、人々の生活の様子がよく知れるものをこのように呼びます。人間の汗のにじんだもの以外、たとえば機械類はこれに該当しないわけです。

編 集 後 記 S

4月2/日は穀雨でした。春うらかな天候が待ち遠しくなるような雨の多い時節「なたね梅雨」を敵のように思いがちですが、土地から生産を得る人々にとっては、なくてはならない自然の営みだといえます。私は農業をする人でさえ気に入らない多雨を自然の教訓にしたいと思いたい。